

## 薬学教育 6 年制元年：夢と希望にあふれたこれからの薬学！

入江 徹美,<sup>\*,a</sup> 工藤 一郎,<sup>b</sup> 山元 弘<sup>c</sup>**The First Year for Six-year Pharmacy Education System: The Future Pharmacy  
which a Dream and Hope are Full of!**Tetsumi IRIE,<sup>\*,a</sup> Ichiro KUDO,<sup>b</sup> and Hiroshi YAMAMOTO<sup>c</sup>*<sup>a</sup>Faculty of Medical and Pharmaceutical Sciences, Kumamoto University, 5-1 Oe-honmachi, Kumamoto City 862-0973, Japan, <sup>b</sup>School of Pharmaceutical Sciences, Showa University, 1-5-8 Hatanodai, Shinagawa-ku, Tokyo 142-8555, Japan, and <sup>c</sup>Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Osaka University, 1-6 Yamadaoka, Suita City 565-0871, Japan*

これまで長い年月をかけてきた薬学教育の充実・改善に関する議論は、理念・目標の段階を終えて、今後は教育現場と臨床現場との共同作業で改革案を実践する段階を迎えた。各大学では、2006年4月に6年制学生が入学し、2009—2010年度には参加型実務実習の実施資格を担保する薬学共用試験（薬系大学が共に用いる試験）が行われ、薬学共用試験に合格した学生が長期実務実習を実施することになる。

2012年3月には6年制学部・学科を卒業した学生を対象にして第1回目の薬剤師国家試験が行われる。

本シンポジウムの第1部は、6年制薬学教育における薬学共用試験の準備状況、実務実習の評価、及び大学の教育・研究に対する第三者評価のあり方などに関して、日本薬学会薬学教育改革大学人会議の取り組み状況を報告し、今後の課題について討議した。第2部では、6年制薬学部での充実した教育・研究体制の構築を目指して、基礎薬学と医療薬学、教育と研究のインテグレーションについて討論した。第3部では、教育制度改革の今後の展望について関係省庁から講演していただき、夢と希望にあふれた次世代の薬学を標榜して、参加者を交えた活発な討論が行われた。

本特集では、まず始めに、「薬学共用試験（CBT）」

<sup>a</sup>熊本大学大学院医学薬学研究部（〒862-0973 熊本市大江本町 5-1）、<sup>b</sup>昭和大学薬学部（〒142-8555 東京都品川区旗の台 1-5-8）、<sup>c</sup>大阪大学大学院薬学研究科（〒565-0871 吹田市山田丘 1-6）

\*e-mail: tirie@gpo.kumamoto-u.ac.jp

日本薬学会第126年会シンポジウム S28 序文

の経過と現状」と題して、市川 厚先生（武庫川女子大学薬学部）に、「日本薬学会 CBT 問題委員会」委員長のお立場から、薬学共用試験、特に実務実習前の薬学生の知識や問題解決能力をコンピュータを用いて評価する客観試験（CBT: Computer-based Testing）の意義や必要性、準備の進捗状況、実施までに解決しなければならない問題点などについてご執筆頂いた。

次に、「実務実習の課題—評価について—」と題して、中村明弘先生（昭和大学薬学部）に、「日本薬学会実務実習指導システム作り委員会」委員長のお立場から、委員会の活動内容と「実務実習モデル・コアカリキュラム」の評価案作成についてご執筆頂いた。

中央教育審議会答申には、「薬学共用試験」、「実務実習」とともに、薬学関係者が自主的に実施すべきものとして、薬剤師養成を目的とした6年制薬学教育の分野別評価が強く要望されている。そこで、「日本薬学会第三者評価検討委員会」委員長の井上圭三先生（帝京大学薬学部）に、「第三者評価の意義と今後の課題」と題して、現在の取り組み状況についてご執筆頂いた。

2004年、国民の総意によって学校教育法及び薬剤師法が改正されたことは、薬剤師に対する期待の大きさを表し、責任の重さを示すものでもある。そこで最後に、「薬学教育改革の現状と展望」と題して、川原 章先生（独立行政法人医薬品医療機器総合機構）及び関野秀人先生（厚生労働省）に、国民の医療に対する安心・安全を確保する観点から、新たな薬学教育への期待をご執筆頂いた。

6年制薬学部の教育目標は、医療現場と直結した連携体制の下、魅力ある“医療人”を養成すること

である。今後の薬学教育の成否が、医療の質を変えていくと言っても過言ではない。